

**本学学生が制作協力・配給した映画「瞬間少女」が国内映画祭でグランプリを受賞
9月27日(日)、米国の映画祭「LA EigaFest 2015」で上映**

文京学院大学経営学部・公野研究室が制作協力・配給を行った映画「瞬間少女」(監督・脚本:清水健斗／公開日:2013年8月31日)は、この度、株式会社ドリームキッドが国内で主催する映画祭「World Gate Film Festival」にて、長編部門でグランプリを受賞しました。本作品は、米国ロサンゼルスで開催される映画祭「LA EigaFest 2015」にて、9月27日(現地時間)に上映される予定です。

【映画「瞬間少女」について】

映画「瞬間少女」は、清水健斗氏が脚本・監督を務めた作品で、余命わずかな2人の少女・遥華と亜希が入院先の病院を抜け出し、さまざまな経験を通じ成長していくヒューマンドラマです。清水監督は、映像制作会社 葵プロモーション(現 株式会社 AOI Pro.)において、制作・助監督としてCMやWebムービー、ミュージックビデオなどを数多く手掛け、「瞬間少女」の制作決定をきっかけに同社を退社し、本作で監督を務めました。本作の制作にあたっては、本学経営学部の公野勉特任教授が全面的なバックアップを行い、公野研究室の学生を中心としたメンバーが制作協力・配給に携わりました。



(作品ポスター)

【本作品と本学の関わりについて】

公野研究室は、映画、舞台、アニメーション、コミック、玩具、キャラクター等のコンテンツを中心に、さまざまな企業との連携により、そのコンテンツのメカニズムと市場性を検証しています。本学の公野勉特任教授は、1993年に円谷プロダクション入社後、東北新社を経て、ギャガ・コミュニケーションズや日活などで数多くの映画の制作・配給を手掛けてきました。2012年、公野特任教授のもと、「瞬間少女」の制作が決定した清水健斗氏が相談に訪れ、学生が作品制作に携わるプロジェクトがスタートしました。プロジェクトには、研究室の学生6名が参画し、主に制作と配給を担当しました。制作では、キャスティングをはじめ、ロケーション撮影、劇場予告の編集など制作の全体的なサポートに携わりました。また配給では、上映劇場の選定や営業、宣伝プランニングなどを手掛けました。結果、本作品は、東京・池袋シネマ・ロサで2013年8月31日から9月13日まで上映され、公開初日の舞台挨拶はほぼ満員で始まり、2週間の興行で約1,000人の来場がありました。

【「World Gate Film Festival」について】

「World Gate Film Festival」は、日本の優秀な映像作品や映像に関わる人材を米国、そして世界へ送り出すことを目的に株式会社ドリームキッドが2014年から開催している映画祭です。今年は第二回の開催となり、長編部門では「瞬間少女」(監督・脚本:清水健斗／公開日:2013年8月31日)が、長編ドキュメンタリー部門では「縄文号とパクール号の航海」(監督・編集・撮影:水本博之／公開日:2015年3月28日)がグランプリに選出されました。「瞬間少女」を含め「World Gate Film Festival」でグランプリとなった作品は、米国ロサンゼルスで開催される日本映画に特化した映画祭「LA EigaFest 2015」で上映されます。過去には「ルパン三世(実写版)」「るろうに剣心(実写版)」「ゴジラ」などの作品が上映され、日本の映画や文化の浸透、日米の相互理解を深めることを目的に、米国の特定非営利活動法人 Japan Film Society が2011年から主催しています。

< 文京学院大学について >

1924年、創立者島田依史子が島田裁縫伝習所を文京区に開設。教育理念「自立と共生」を根源とする先進的な教育環境を整備し、現在は、東京都文京区、埼玉県ふじみ野市にキャンパスを置いています。外国語学部、経営学部、人間学部、保健医療技術学部、大学院に約 5,000 人の学生が在籍する総合大学です。学問に加え、留学や資格取得、インターンシップなど学生の社会人基礎力を高める多彩な教育を地域と連携しながら実践しています。